

歌が生まれる

校歌制作レポート 第7回



イラスト：山崎奈緒

《なんちゃってダミー歌詞》

木漏れ日揺れる裏山に 学海の風そよぐとき
赤き煉瓦の学舎（まなびや）に 集いし友と語る夢
敬愛・勤勉・聡明を 若き歩みの旨として
共に開かん知の扉 上田短大我が母校

《学生の姿パッチワーク》

元気で笑顔で、個性豊かな仲間と
手を取り、支え合い、語り合い、励み合い、心を通わせ
美味しい学食ごはんを楽しみに、るんるんらんらのびのびと
夢を抱き、夢を育み、夢を叶え
未来を変え、未来を創る

2つのタタキ台を作った上で、それぞれをボコボコに批評して、不覚にも予定通り取り乱し…と自作自演でさんざん遊んでみたおかげで、「やりたくないこと」がかなりはっきりし、準備が整いつつあるようです。

さてそろそろ「じゃあどうするのか？」の具体策に入っていこうと思うのですが、ちょっとその前に…。

町田育弥 Profile

桐朋学園大学で作曲を専攻。中・高等学校教諭、音楽大学講師など常に教育に携わりつつ、作・編曲・演奏活動を展開。作品は、歌曲、室内楽、吹奏楽、管弦楽、劇音楽など多岐におよぶ。著書にピアノ教本「みみをすます」全4巻、歌曲集「あったかい」などがある。2014～2020年まで本学幼児教育学科教授を務めた。現在、本学客員教授、認定こども園恵泉幼稚園（さいたま市）園長。

♪♪♪ 8月20日 レポート

気づいてしまったこと

ここでちょっと訂正、というか前言撤回。第3回レポートで「何とシンプルで潔い歌詞であることか！」と紹介した香川県英明高校（負けちゃいましたね、残念）の校歌の歌詞を間違って認識していました。

秀れた人になりたい／英知と心／学ぶは英明

元気な人になりたい／太陽の心／輝く英明・・・ですね。

赤文字のところを1番と同じ「学ぶは」だと勘違いしていたため「こうなりたいから**コレ**を**ここで**学ぶのだ」と、それだけを平易な口語で歌っているのだと捉えてしまい、間違った驚嘆につながっていた、というわけです。もちろん「輝く」があったとしてもシンプルで潔いには違いないですが、**コレ**は「英知と心」であり、その心とは「太陽の心」であり、**ここ**は「英明」と、ただ校名を言うだけ（実はここが最も潔いと思ったところ）…という解釈は、だから間違っていますね。「英明」という校名は2番の「輝く」でしっかり形容されています。以上を整理すると…

1番では隠れ主語「私は」が「秀れた人になる」と「英知と心を学ぶ」の両方（**コレ**をする）にかかり、「どこで」（**ここ**）は英明という校名のみ。

2番では隠れ主語「私は」は最初の「元気な人になりたい」にかかるのみで、その後は「英明は」「太陽の心が輝く学校である」と主語を校名に置き換え（「隠れ」状態だが）た別の文が置かれるという構造。「英知」と「太陽」には、校名の「英」と「明」が反映しているのかもしれませんが。

これだけの少ない語数の中に、「私は**コレ**を」と「この学校=**ここで**」が**一筆描きのように**きっちりと収まり、しかも余計な説明抜きで鮮明に表現されている。シンプルで潔い、と言いましたが、なお率直で力強く明るい、と賛辞を重ねたいほど。勘違いで感心し、ちゃんとわかってさらに感動。こういう具合にいきたいものです。

コレとここを一筆描きで

こんな、間違いの言い訳を正当化するようなクドい文をなぜ長々と書いたかというと、「一筆描きのように」はカッコいいじゃん！と言いたかったから。そして、これから作ろうとしている歌に使える「一筆描き」のアイデアを思いついたからです。キーワードは「遊ぶ」と「学海」。しかも当初から企んでいた **U・E・D・A** 隠しもやりながらの一筆描き…。

どうするのか？ 具体的なやり方は次回お示しします。